

短期的な取組について

当日の説明概要

○真駒内緑小学校の跡利用について

老朽化する駅周辺の市有施設等の更新に伴う土地利用転換に向け、札幌市が所有したまま暫定利用します。また、当面の対応として、グラウンドの一部を区役所駐車場として整備する方向で検討を進めます。なお、建物の再利用については、今後の検討とします。

○校舎の再利用について

学校を学校以外の施設（事務所、福祉施設など）に転用する場合、建築基準法・消防法の規定による改修が必要となり、その費用は数億円を超えると想定されます。

○自転車駐輪場の整備について

道警宿舍前の自転車駐輪場を道警宿舍用地側に移設し、歩行環境の改善を図ります。

○真駒内緑小学校の暫定利用についての意見（抜粋）

校舎の暫定利用

- 改修にたくさんのお金がかかるのであれば解体して、避難場所、駐車場、グラウンドに利用
- ふれあいサロン（地域交流の場）、避難施設、サークル・スポーツ活動、図書館、保育所、高齢者大学、直売所、食堂などに利用
- 利用料金をとる。他の施設との関係が重要。民間圧迫にならないよう注意

体育館の暫定利用

- 体育館は残して、スポーツ施設のほか、各種イベントなど多機能施設、地域コミュニティの場所、避難所などに利用
- 解体して、更地に利用する方法もあるのでは

グラウンドの暫定利用

- 区役所等の利用者の駐車場、（月極）有料駐車場などに利用
- 少年野球やサッカーの地域のスポーツ活動、盆踊りや朝市などの地域イベント、子どもの遊び場などに利用

その他

- 若い人の意見も聞いては
- 校舎の改修に数億円かかるというのは、住民はわからない

○真駒内小学校の跡利用について

現在、公共施設としての活用を含め、札幌市内部で検討中のため、今回の議題とはしませんでした。意見交換の中で「子どもやお年寄り関係の施設」、「スポーツ施設」などに利用してはどうかという意見が出されました。

※皆様からいただいたご意見の概要を掲載しています。

今後の予定（札幌市）

今回のマイタウントークの結果を踏まえ、札幌市では「仮）真駒内駅周辺のまちづくり指針」を来年春頃に策定する予定です。なお、この指針に盛り込む内容等は、引き続き検討してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

●発行者（共同発行）

○真駒内地区連合会 〒005-0014 札幌市南区真駒内幸町2丁目 真駒内まちづくりセンター
TEL. (011) 581-3025 FAX. (011) 581-8020

○札幌市市民まちづくり局 都市計画部地域計画課 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL. (011) 211-2545 FAX. (011) 218-5113



真駒内まちづくり通信 第2号

平成23年11月

平成23年度 マイタウントーク

～真駒内駅周辺のまちづくり指針の策定に向けて～ を開催しました

今回のマイタウントークの目的

昨年10月に札幌市と真駒内地区連合会との協働による意見交換の場として、「マイタウントーク～真駒内駅周辺に係る課題について～」を開催しました。この結果を踏まえ、「真駒内駅周辺のまちづくり指針の方向性」を検討することを目的とし、真駒内駅周辺の誘導機能の考え方や中長期的な土地利用の方向性、小学校の跡利用などについて意見交換を行いました。

マイタウントーク 開催概要

■開催日時 平成23年9月10日（土）
13：30～16：30

■開催場所 真駒内総合福祉センター2階ホール

■主催 札幌市市民まちづくり局
真駒内地区連合会

■参加者 約60名
(町内会や商店街、南区連合町内会長へご案内)



真駒内駅周辺の中長期的な誘導機能と土地利用の考え方

当日の説明概要

○誘導機能の考え方

(昨年のマイタウントークの意見を踏まえて整理)

駅の拠点性を活かした賑わいの場の形成

- 南区を代表する歴史資源や集客資源を活かした南区の顔となる交流の場の形成
- 開拓期の地区形成の歴史や冬季オリンピック等、地域が誇りに感じる歴史文化を学び・伝える場の形成
- 生活利便施設や福祉施設など地域内外の多様なニーズに応える複合的な土地利用の推進
- 地区内外の人々が利用し、新たな交流が生まれる駅前賑わいの場の形成
- 大学等、真駒内周辺の教育機関の立地を活かし、多様な世代が交流する場の形成

地域のコミュニティ活動を支える場の形成

- お年寄りから子どもまで、誰もが気軽に集い、交流できる場の形成
- 誰もがまちづくりに参加し、地域課題の解決や活性化に取り組む機会や場の形成

暮らしやすい住環境の形成

- 子育てや高齢化に対応した生活サービス機能を誘導
- 生活利便施設や福祉施設など地域内外の多様なニーズに応える複合的な土地利用の推進(再掲)

歩いて楽しい空間の形成

- 真駒内らしい豊かな自然を活かした駅前のまちなみの形成
- 自動車・自転車・歩行者ともに安全で快適な駅前環境の形成
- 駅周辺のバリアフリー化により、誰もが安全に移動できる駅前の実現

○誘導機能の考え方についての意見(抜粋)

追加すべき機能

- 人が集まる場所、駅前広場
- 駅前通を中心とした商業施設(スーパー、飲食店、喫茶店など)
- バスターミナル、パークアンドライド

特に優先すべき機能

- 駅前広場、道の駅・まちの駅的な機能
- 飲食店、喫茶店
- 駐車場

- 既存施設の活用(スポーツ・文化)
- 若い世代が魅力を感じるまちに

- 避難所を含めた防災機能
- 保育所や学童保育など子育て支援施設
- 高齢者の福祉施設や交流の場

- 医療施設の充実
- 教育・文化施設の充実
- 平岸通の拡幅

- 緑小跡を公園化・少年野球場
- 医療と福祉の機能複合化

- 色々な機能をもった広場空間
- タクシー台数や乗り場の整理
- 真駒内駅裏の緑を大切に

- 駐輪スペースの拡大・整備
- 駅前の歩道の安全確保

その他

- バス・タクシー会社側からの意見も必要
- 若い人の意見が必要(子育て世代、高校生、大学生、サラリーマン、壮年)

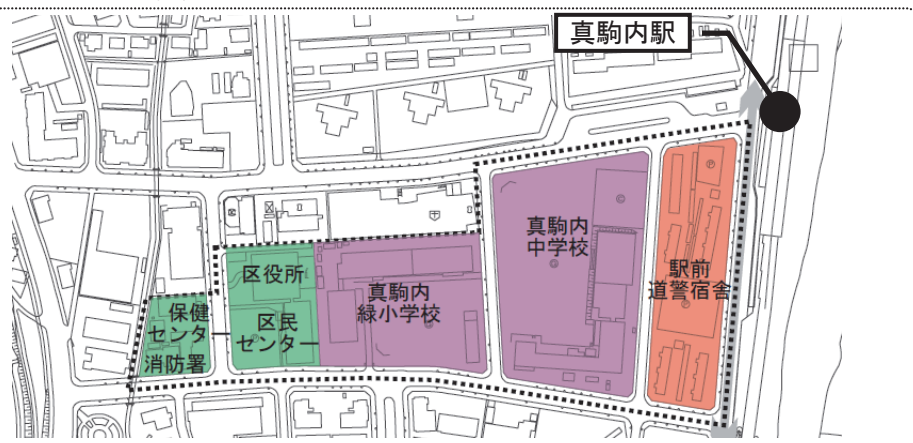
○真駒内駅前の民活エリアの誘導機能についての意見(抜粋)

- 民活エリアの誘導機能としては、商業複合施設+広場+交通機能
 - ・商業複合機能としては、福祉サービス施設、病院、飲食店、待合わせスペースなど
 - ・商業複合機能を誘導する場合、既存商業施設への影響が心配
 - ・広場機能としては、イベント広場(文化、スポーツ、待ち合わせ、遊び場)など
 - ・交通機能としては、駐車場、停車スペース、駐輪場、バスターミナル、パークアンドライドなど

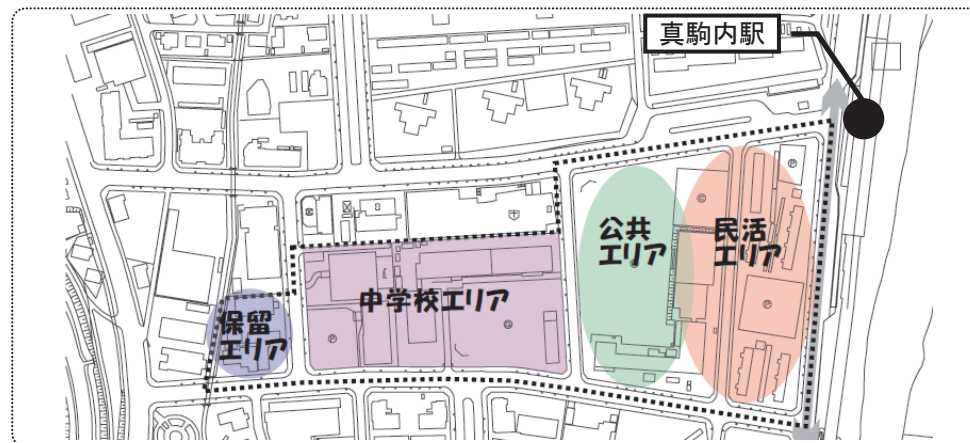
○真駒内駅周辺の中長期的な土地利用の方向性についての意見(抜粋)

- 駅前民活エリアとするのが良い
- 駅前通沿いに民活エリアをもってくる
- 民活・公共のゾーン分けを明確にしなくてよい
- 公共エリアの考え方として、区役所・保健センター・消防署・南警察署の諸施設を一括建物に集約し、土地の有効利用を考える
- 駅前に公共エリアを持ってきた場合、交通渋滞が心配。区役所・区民センターは、そのままよい。緑小跡を公共エリアとする
- 中学校については、他への移転を検討。統合も視野に入れる
- 土地利用の考え方やエリアの配置の検討に当たっては、ミュージアム、交番、ガソリンスタンド、NTT、UR団地を含め、全体のエリアで考えるべき
- 土地利用の考え方やエリアの配置の検討とあわせて、駅周辺道路網を見直す

真駒内駅周辺の現状の土地利用



真駒内駅周辺の中長期的な土地利用の方向性(例示)



※皆様からいただいたご意見の概要を掲載しています。